

堆肥化について

畜産講座

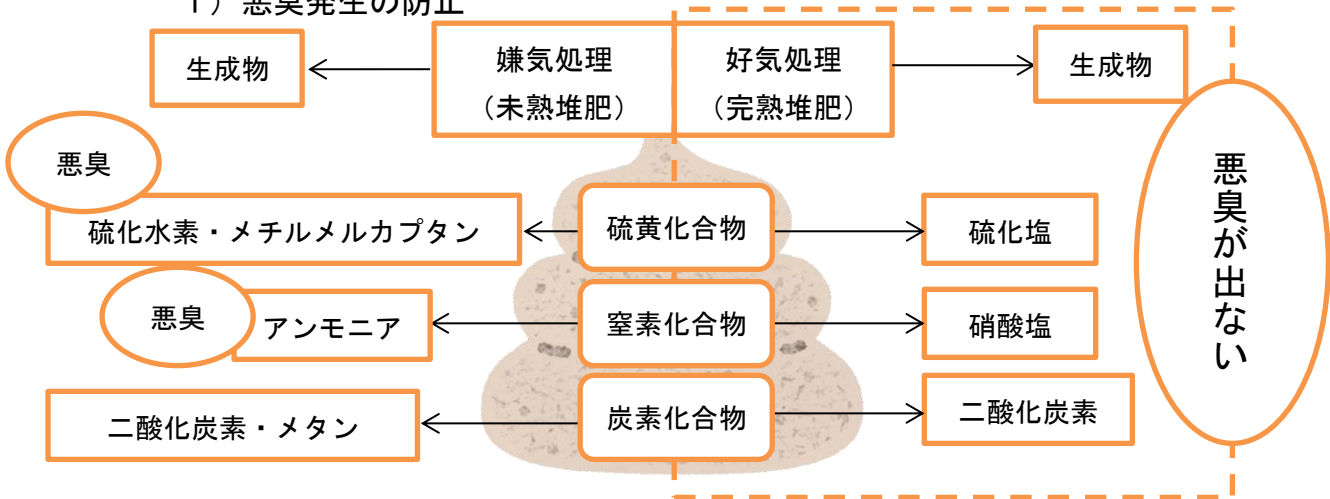
畜産規模拡大と環境問題

規模が拡大・増頭すると当然、糞尿量が増加し、その処理を怠ると環境問題へと発展し、收拾がつかなくなります。

これをうまく処理する方法として、堆肥化についてお話ししたいと思います。

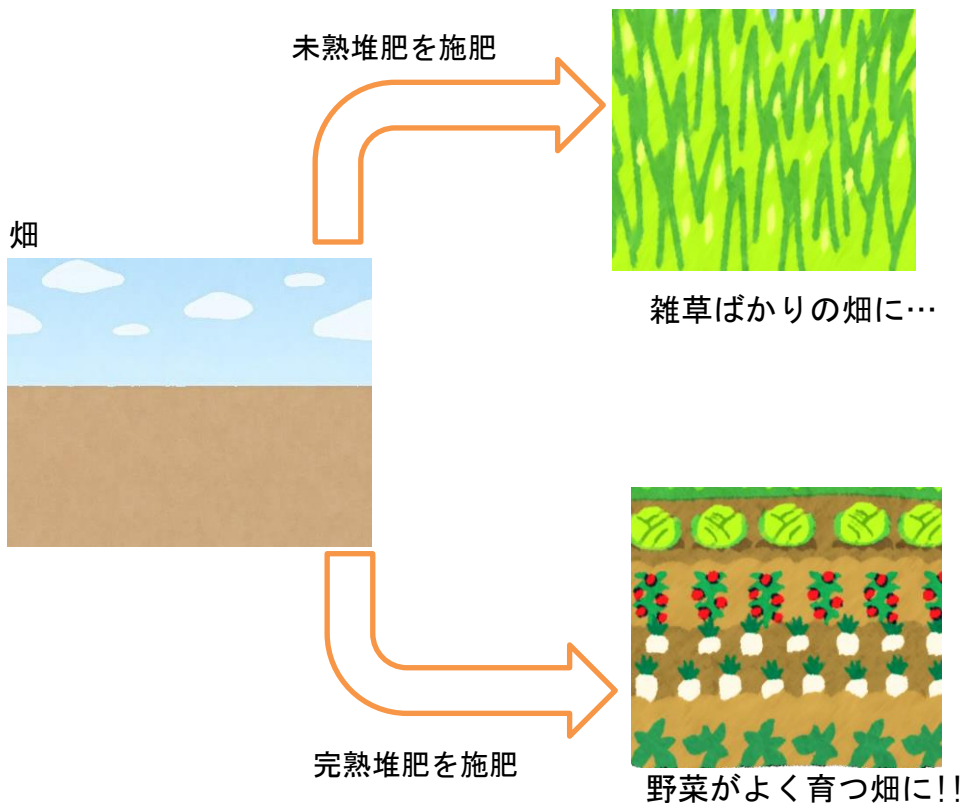
☆完熟堆肥を作りましょう

1) 悪臭発生の防止



良質な堆肥をつくることで悪臭物質の発生を抑えられます

2) 堆肥中の雑草種子が死滅する

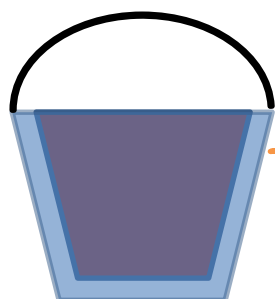


堆肥化の過程で発生する発酵熱で牛が食べた雑草種子や大腸菌が死滅します

☆堆肥の検証方法

・堆肥化するには混合物比重0.7（容積重700 kg/m³）以下が最適です。

家畜糞と副資材を混ぜ、10ℓのバケツに摺切りいっぱい入れた時の重さを7kg以下にすると、適切な通気性が得られます。



混合物 6.5 kg / 10ℓ

このような方法で検証してください。

☆副資材の計算方法

例：豚農家で1日に排泄される糞量が210kg（水分含量が75%）の場合で、副資材としてオガ屑（水分含量25%）を混合する際に必要な量は

$210\text{kg} \times (75 - 62) \div (62 - 25) \div 73.7\text{kg}$ のように計算します。（堆肥化が始まる水分含量を62%と仮定しています。）

（これはあくまで1つの例です。）

☆切り返しが重要

副資材を混ぜることで通気性がよくなり好気性発酵が進むのですが、

どんどん堆肥を積み上げていくと、そのままでは深部まで空気が届かないため、その部分の堆肥化発酵が進みません。

全体の発酵を進めるため、表層と深部を入れ替える「切り返し作業」が必要不可欠です。1週間に1度切り返しを行うことで堆肥化が促進され、3～4ヶ月で完熟堆肥ができあがります。

堆肥舎の新設等を考えている方は、畜産試験場までご相談ください。

畜産試験場
生産環境部

TEL 0739-55-2430